

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200229		
法人名	社会福祉法人清光会		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	高崎市箕郷町矢原52番地3 (電話)027-371-0804		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・今年度は、外出行事の充実に努めています。また、昨年度までは、職員だけの力で開催していましたが、今年度は、家族に参加を呼びかけ協力をいただいています。家族参加を呼びかけることにより、家族と利用者との思いでづくり・職員と家族・家族同士の交流輪が広がっています。
 ・食事については、バイキング形式の昼食・おやつや季節感のある行事メニュー(うなぎ・おはぎ・流しそうめんなど)・一緒に作れるおやつ(お饅頭・ホットケーキなど)を行い充実に努めています。今後は、手作りおやつ(一緒に作れるおやつ)の充実に努めていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の要望に応え、本グループホームは開設される。入居者は地域の方が多く、近くに住む家族の面会や法人内のデイサービスに通う友人の訪問もある。また、自宅まで外出し、家族と一緒に外食や墓参りを行っている方もいる。天気の良い日には、近隣の散歩やベランダに置かれるプランターの水やり、長椅子に腰掛けての外気浴等の戸外活動が行われている。今年度は外出の機会を多く持てるように行事を計画し、花見や公園へのドライブに出かけている。その際には家族に参加を呼びかけ、楽しい一日となっている。施設長・管理者・全職員は理念の「入居者が明るく健康で楽しく豊かな老後」を基本に楽しい話題やレクリエーションを工夫し、入居者が笑顔になれる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> 毎月1回の全体朝礼にて、理事長が運営方針・理念を話している。 年1回、内部研修にて理念について確認。 月1回の会議や申し送りなどで「健康で一番楽しく生活できるように」話し合い取り組んでいる。 	<p>開設時からの理念を掲げ、毎月会議の中で話し合いをしている。職員は、入居者が明るく楽しい笑顔のある生活支援に取り組んでいる。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえたホーム独自の理念を職員全員で検討されるよう期待したい。</p>
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の方とは、日常挨拶をしている。 運営推進会議には区長・長寿会・民生委員に出席していただいている。 	<p>天気の良い日は散歩に出かけ、デイサービスに通う方やケアハウス入所の友人に面会したり、介護相談員や理事長の訪問では会話を楽しんでいる。法人で行う納涼祭には家族と共に参加したり、夏休みには児童館の子どもの訪問や地域の敬老会に参加する等地域の方との交流が行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 見学者など相談に乗っている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議では、2ヶ月間の活動報告などを行い、前回の会議より充実した報告が出来るように努力している。 質疑応答などで頂いた提案など、申し送りなどで報告し今後につなげている。 	<p>2ヶ月毎の運営推進会議が開催され、報告事項や質問等の活発な意見交換が行われている。出席者から納涼祭時に東北震災義援金箱設置の提案や家族からの本人が重度になるとどうなるのかの質問に対する説明がなされる等、サービス向上に活かしている。</p>	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 支所や本所などに用事で出かけた時や運営推進会議の後など、相談にのって頂いている。 包括の職員も相談乗って頂いている。 	<p>介護保険の申請や報告事項等の際に、市の担当課に直接出向き、情報交換をしている。法人の代表者会議には、包括支援センター職員の出席があり相談をしている。協力関係を築くよう取り組みをしている。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 現在、身体拘束はしていない。 内部研修にて、年1度確認。 玄関については、外からは自由だが、外に出るには暗証番号が必要、午後は出来るだけ、開放するようにしている。 	<p>管理者及び全職員は身体拘束をしないケアについて理解し、身体拘束はしていない。内部研修も行っている。ホールの引き戸から自由にベランダに出たり、外出傾向のある方は午前中散歩に出たり、一階まで職員と一緒に降りたりして、気分転換を図っている。玄関は午後の時間帯は開放している。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員、それぞれ注意して業務にあたっている。 内部研修にて確認。言葉づかいは職員会議の時に確認。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・現在、利用している利用者なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時は、施設長・事務長・管理者が3者出席のもと、説明を行い納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情窓口を設け苦情処理・改善につとめている。	苦情相談受付窓口は、ホーム内・外部の機関等の電話番号を契約時に説明し、重要事項説明書に明記し、意見箱と共に玄関に置いている。意見を頂くと必要な場合は検討会議が行われ、家族へ説明がなされ、職員に周知徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月一回の職員会議を実施し、管理者と職員と意見交換を行っている。また、その意見を主任者会議などで報告している。 ・随時、意見交換を行い業務などに反映している。	毎月職員会議があり、介護用品やソファ等々の備品購入やレクリエーションの研修等の希望、ケア方法の工夫等活発に意見交換がなされている。意見や提案等については、法人内の主任会議に於いて管理者が報告し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・能力査定を実施。 ・給与水準は県給与に準ずる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員会議でケース検討・事故対策などを行っている。 ・内部研修は、テーマごとに行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・法人内の他部署との意見交換や相談は行っている。また、他部署との合同の行事も実施。 ・他施設の見学も実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・出来るだけ、利用にあたり不安のないようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・出来るだけ、利用にあたり不安のないようにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・施設見学時、にグループホームの説明だけでなく、たのサービスも同時に説明し本人がどのサービスが必要か考えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員は、利用者とふれあう時間を多く持ち、一緒に献立を考えたり、一緒に行事や活動をするによりより良い関係が築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族の面会や外出など協力をお願いしている。 ・面会時には情報を共有できるように状態報告を行っている。 ・家族も参加できる行事(バスハイク・花見など)を実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会は、制限しないようにしている。 ・家族との交流をはかれるよう行事などの参加を呼び掛けている。	兄弟や親戚、友人等の面会、家族と一緒に墓参りや外食、他施設に入所している夫の面会等に出かけている。家族との思い出作りの手助けとして行事への参加を呼びかけて、途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・トラブルや仲間はずれなどないように席替えなどトラブルを未然に防ぐように調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・月に1回、介護相談員の来園により、悩みなど相談にのって頂いている。	職員は入居者との触れ合いを大切にして、一緒にメニューを考え、食べたいものや行きたい所等を聞いている。現状では、殆どの方が意思の疎通が図れている。言葉が少なくおとなしい方には他の入居者や職員・家族の情報等により、思いや希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時に、面接調査・これまでのサービス利用事業者などに状態報告などを聞き把握している。また、入所後も随時、家族や本人の会話などからも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ケース会議や申し送り時など状況を把握し職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケース会議でこれまでの情報をもとに介護計画を作成。	職員は、本人・家族からの希望を聞き、日々介護の問題点等を毎月のケア会議で検討し、介護計画を作成して家族に了承されている。モニタリングは去年は実施していたが、今年に入り書式の検討の為に中断している。	毎月モニタリングを行いその現状に合わせた介護計画を立案されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別のケース・日誌で申し送りなどで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その都度、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・カットボランティアの利用。 ・納涼祭などボランティアの協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医には、家族から又は職員から直接状態報告を行い適切な診断・処方されるように援助している。	入居時に、協力医の説明を行い、以前からのかかりつけ医を受診する方やホームの協力医に変更する方がいる。協力医の往診、歯科医の毎週の訪問診療が行われている。歯科医院での治療が必要な場合は、家族の都合により職員が同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同一法人内の看護職に相談・緊急時の協力を要請している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時、介護サマリーなどでこちらでの情報を提供。入院後は家族と連絡をとりながら退院時の相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・利用者の重度化した時に、グループホームを利用することのデメリット・メリットを説明し家族と相談しながら支援している。 ・入所時に重度化したときの事も説明している。	入居時にホームのできるケアについて説明しており、重度化した場合は対応できる施設(特別養護老人ホームや病院)へ移ることになる等説明をしている。段階に応じて、家族・かかりつけ医・ホーム側で話し合いを行い、方針の共有を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・内部研修にて確認。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年二回、法人全体で箕郷分署立会いにて避難訓練を行っている。 ・独自に訓練を行っている。 ・今回の震災を受けて、備品の再整備を行った。	年2回法人全体で消防署の指導の下に火災訓練を行い、ホーム独自でも避難訓練を実施し、避難経路・場所等を確認し、消火法等を行っている。火災報知機・スプリンクラーの設置があり、近隣宅に災害時の協力依頼をしているが、訓練への参加はない。法人との協力態勢については、今後検討をしていくとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーの保護につとめている。 ・契約時、個人情報についてもサインを頂いている。 	入居者の人格を尊重し誇りを傷つけないように言葉には気をつけており、馴れ馴れしい言葉使いを耳にすれば、管理者がその職員に指導をしている。入浴時に異性の介助を嫌がる入居者には、同性介助でその方のプライバシーを尊重し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・衣類販売会・バイキング形式のおやつ・昼食など選択出来る様な行事を実施。 ・日々、コミュニケーションをとり献立を一緒に考えたりしている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々のコミュニケーションのなかから、おやつ等の希望をきいて当日変更したり。散歩の希望などを聞き、柔軟に対応している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者に対し、カットのボランティアをお願いしてカット・髪染めを行っている。他の方は家族をお願いしている。 ・衣類販売も実施。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・バイキング形式・外食・行事食など楽しめるような行事を行っている。 ・下膳や簡単な食事の準備のお手伝いなど協力していた頂いている。 ・お饅頭作り・ホットケーキ作りなど一緒に作るおやつも行っている。 	入居者の希望を取り入れた献立を作成し、庭先で採れた野菜・頂いた野菜・法人で栽培したジャガイモや玉葱等を使い調理している。食事が楽しめるようにバイキング形式にしたり、月見の白玉団子や彼岸のおはぎを一緒に作ったり、おやつには饅頭やホットケーキを焼いたりしている。入居者は職員と一緒に食材購入に出かけ、野菜の下拵えや下膳をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人にあった食事形態や食器など工夫して行っている。 ・食事摂取量が少ない方には、その人にあったものおかずを追加するなど対応。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後の口腔ケアの声かけ・介助の実施。 ・義歯のポリドント実施。 ・状態に応じて家族相談をして歯科通院・往診を行っている。 ・訪問歯科をお願いしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・定期的な声かけ・トイレ誘導・トイレ介助を行い、トイレでの排尿を行っている。	定期的なトイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。紙パンツ・布パンツやポータブルトイレ等その人に合わせた排泄支援をしている。	排泄のチェック表や介護記録等から一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄の自立支援を期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘がちな方には、水分を多くとるように促している。家族と相談し飲みやすいもの工夫。 食物の工夫・マッサージ・内服の調整などを行い排便コントロールを行っている。 ・おやつにヤクルト・ヨーグルトを購入し摂取している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・安全面などで、時間などは決まっているが、出来るだけ入浴出来るように支援している。	週2回の入浴日となっているが、必要時はシャワー浴も行っている。入浴を嫌がる入居者には、言葉かけの工夫や時間をかけて対応している。入浴が楽しめるよう季節の柚子や入浴剤を使用したり、ゆっくりと湯船に浸かったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室の室温・寝具の調整、医師との相談など行い実施。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・家族からの通院時の申し送りや病院からのお薬説明書などを職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・行事・壁面づくりの実施。 ・園芸活動・習字なども実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・家族による外出支援をお願いしている。 ・グループホームでは花見・公園などへのドライブを実施。今年からは、家族も参加を呼びかけている。 ・個別には、散歩や玄関先などでのひなたぼっこを実施。	天気の良い日は、入居者は近隣を散歩したり、ベランダの長椅子で外気浴やプランターの花の水遣り等をしていたりしている。季節行事を計画し、初詣・梅見・バラ園等家族に参加を呼びかけて、法人の車で出かける支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理できる方に対しては小遣い程度持参している。その中からカット代などを支払う方もいる。 ・今後、お買い物ツアーなども企画していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族に用のある方は電話をしている。電話の後、家族に変わっていただき内容の確認を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホールには植物・壁面など季節感のあるような飾り付けをしている。	ホールにはくつろげるソファが置かれ、自由に出入りできるベランダがあり、思い思いの時間を過ごしている。キッチンカウンターには、栗やススキの飾りがあり季節感を演出している。壁面には入居者の誕生日会や花見等の写真が掲示され、訪問者を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ホールにソファを置いたり、ベランダや玄関にベンチを置いたりいこいの場として使用。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、使い慣れた家具などを持参して頂いている。	居室には、本人・家族と相談して鏡台、椅子、時計、ベッド、整理筆筒等が持ち込まれ、家族の写真が飾られている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ホールには、大きな日めくりカレンダー・ホワイトボードに本日のメニューを設置。 ・トイレの場所がわかるように看板設置。		